SOCIAL

コロナで失業率、廃業増加 困ったら支援の活用を

12月3日、大阪府の新型コロナウイルスの警戒信号が赤に点灯し、非常事態の対応が取られた。ウイルスが活動的になる冬以降も、厳しい状態が続くと思われる。全国的に経済活動が停滞し、退職や廃業を余儀なくされる人も少なくない。収入源が途絶えた場合、国や自治体の支援策があるので改めて確認したい。

今年に入ってから完全失業者数は全国的に増加傾向にある。総務省の調査によると、近畿では1月に2.4%だったのが3月以降はほぼ3%を超え、10月時点で3.3%(約36万人)となっている。また、同期間の有効求人倍率は全国的に減少の一途をたどり、大阪では10月時点で今年最低となる1.1倍となった。昨年度の大阪の月平均1.74倍と比べ今年度は10月までの月平均1.22倍となり0.52ポイント減少している。また12月16日時点の帝国データバンクによる調査では、新型コロナウイルス関連倒産は全国で808件、大阪は東京に次いで2番目に多い76件。求職者にとって厳しい状況が続いている。

失業者への支援として、春以降に施行されてから現在も継続中である「住宅確保給付金」は、主たる生計維持者が離職・廃業後2年以内である場合などに利用できる制度で、家賃額が原則3か月間支給される。支給額の上限は市町村ごとに異なり、希望者は各自治体の直営または委託で運営している生活困窮者自立相談支援機関などに申請する。

また、府ではコロナによる離職などで住居を退去する人に向けて、府営住宅を一時的に提供している。国では住宅ローン減税の入居期限要件を満たせない人が、代わりの要件を満たすことで同様の減税措置が適用される弾力化措置も講じている。

ほかにも府では、緊急かつ一時的な生計維持のための貸付を必要とする世帯には、原則10万円以内を貸し付ける「緊急小口資金」、コロナによる収入の減少や失業などで日常生活の維持が困難となっている世帯に月20万円以内を貸し付ける「総合支援資金」もある(ともに無利子、保証人なしも可)。期間や条件など、詳細は各窓口に問い合わせを。

【 相談窓口 】

住宅確保給付金
各自治体の自立相談支援機関
府営住宅の一時利用
大阪府住宅まちづくり部住宅経営室経営管理課
緊急小口資金・総合支援資金
各自治体の社会福祉協議会
大阪府社会福祉協議会 ほか
住宅ローン減税の弾力化措置
国土交通省

SOCIAL

コロナ禍の成人式 中学校区ごと開催多数

新型コロナウイルス感染症の影響により各市で今年の成人式の開催方式を変更している。今年度の成人式は多くが1月11日。多くの自治体は中学校区ごとに2～4部制とし、式典以外の舞台イベントや同級生・恩師と語らうコーナーなど、密になるイベントは一様に廃止を決定している。

豊中市は同時間帯に複数会場で開催し、式典を各中学校の体育館に映像配信することを発表。会場が広い「市立吹田サッカースタジアム」の吹田市は1か所で一括開催。事前に入場整理券を配布したり入場時に検温したりするなど対応している。茨木市では式典の内容を市HP上でも配信予定という。いずれの自治体も会場ではマスク着用、手洗いやアルコール消毒などコロナ対策を実施。

今年新成人となる高槻市出身の男性は「成人式の会場には行きますが、中学校区別の開催なので高校時代の友人で会えない人もいます。今は大人数が集まる同窓会もできないので、少人数で集まる予定です。コロナが終わったら、ぜひ同窓会をしたいです」と話した。

SOCIAL

箕面の会社と阪大発ベンチャーが「実生ゆず」で安全安心な消毒スプレーを開発

実生ゆずを使ったスキンケア商品開発・販売やケアサロンを手掛ける箕面市の「re・make」(リメイク)が12月、大阪大学発のベンチャー企業と共同で実生ゆずの成分を抽出した消毒液の開発に成功した。1月から実店舗での販売を予定している。

接ぎ木で育った一般的なゆずと違い、実生ゆずは種から育った希少な原種で香り高く大粒の高級品。しかし有数の産地である箕面では、管理する農家の高齢化が進み一時期放置されていた。手入れされない実生ゆずは実をつけなくなるため、箕面から姿を消す可能性も。「このままではいけない」と同社の社長・岡山栄子さんは、果皮を利用した商品開発を開始。これまでにアロマオイルやスキンケア商品などを手掛け、自社製品を用いたサロンも運営している。

コロナ禍を受けて、以前からやりとりのあった大阪大学バイオベンチャーの医学博士から声がかかり開発が決まった。特殊な方法で、果皮のワタから抗酸化作用や殺菌力といった有効成分を効果的に取り出すことに成功。コロナウイルスと、ノロウイルスの試験ウイルスである「ネコカリシ」両方において、希釈した試験薬で99%以上の感染阻害効果を発揮した。「飲食店の方は、コロナだけでなくノロウイルスにも神経を遣います。消毒のためコロナにはアルコール、ノロには次亜塩素酸を使い分けるのですが、これはどちらにも効果があります」と岡山さん。また、天然成分なので肌へのうるおい成分もあり、リラックス効果のおまけも。完全無農薬なので、小さい子どもから高齢者まで安心して使える。

30mlスプレーボトル980円(来春発売)。今は量り売りで北摂内取り扱い店舗の募集を検討中だ。

スプレー以外に、500mlの詰め替えボトル3,800円も。

有限会社 re・make
箕面市牧落3-4-20
info@yuragi.co.jp

CULTURE

万博の大規模アリーナ 2事業者が応募

大阪府は11月30日、万博記念公園に建設を予定している大規模アリーナについて2事業者からの応募があったことを明らかにした。

府では2015年から万博記念公園駅前周辺地区の活性化に向けて、「大規模アリーナを中核とした大阪・関西を代表する新たなスポーツ・文化の拠点づくり」を推進していくことを決定していた。民間事業者からの事業提案を募集し、当初の予定では2019年10月に公募開始し、翌年5月頃に最優秀提案者を決定する予定だったが、新型コロナウイルスの影響で延期となっていた。2020年10月に募集を締め切った時点で海外の2事業者から応募があった。12月を目途に最優秀提案者及び次点提案者の決定・公表を予定している。

CULTURE

愛猫が叶えた画家の夢 鉛筆画家・西方さん初の画集出版

「鉛筆で猫を描いています」というコメントとともに4枚の絵がツイッターに投稿された。まるで写真のような精密な絵が反響を呼び、6千件を超えるリツイートを記録、現在もその件数は増え続けている。

投稿したのは伊丹市在住の鉛筆画家・西方由美さん。今は亡き愛猫、「タラコ」と「クロ」が画家への道を大きく拓いた。

子どもの頃から描くのが好きだったという西方さん。イラストレーターを目指してデザインの専門学校に入学した。しかし当時は描きたいものが見つからず1年で中退、絵とは関係のない仕事についた。

転機が訪れたのは、2017年のこと。部屋の掃除をしていたときにたまたま学生の頃に使っていた画材が出てきた。1年前、約20年一緒に過ごした愛猫タラコを亡くしたばかりだった。寂しさを紛らわすように画用紙に鉛筆で生前の姿を描いた。

それから、近所の猫や保護猫カフェの猫を写真に撮って描くように。ぽつぽつと描いてはツイッターに投稿していた。

話題になったのが、2020年5月25日にツイッターに投稿した作品。防寒用の服を着た愛猫クロ、神社の土産物売り場で昼寝する猫など精密に描かれた愛らしい姿が多くの反響を呼んだ。「生き生きとして動き出しそう」「うちの猫も描いてほしい」など200件を超えるコメントが寄せられた。

絵はすべて鉛筆とシャープペンシルで描く。鉛筆は2H～10Bを使い分け、細部は細さ0.3mmを使う。毛を一本一本描く作業は集中力が必要なため1日4～5時間ほどで精一杯。A4サイズの作品は30時間ほどかけて仕上げる。

11月には初の画集『タラクロ・保護猫・地域猫』(金木犀舎)を出版。38枚の作品をモデルになった猫たちとのエピソードを添えて紹介している。猫の鉛筆画の描き方の解説も収録。売上の一部は、猫の殺処分ゼロを目指して活動する団体に寄付される。

西方さんは「絵を描いて生きていきたいという夢をタラコとクロが叶えてくれた。猫と人が一緒に幸せになれるような関係がもっともっと増えたら」と願っている。

(左)防寒着姿のクロ
(上・下)ツイッターに投稿して話題になった絵など。

現在一緒に暮らすチャビの絵を手にする西方さん。